

A 病棟看護師のストレスと作業環境の関連性についての調査

キーワード：看護師 ストレス 作業環境

C 棟 6 階 ○松本綾華 高津佐智子

I. はじめに

近年の看護現場は医療の高度化・複雑化に加え、在院日数の短縮化による重症患者の増加、患者ニーズの多様化などの影響を受け、看護師の抱える職場ストレスは高まっており早期の対策が求められている。

先行研究では年代別・診療科別・勤務体制別等様々なカテゴリ別にストレス調査を実施している。ストレスの要因には人的要因や業務量によるもの等、様々あるが作業環境と看護師のストレスに焦点を当てた先行研究は皆無であった。またここ数年 A 病棟看護師より、作業環境が煩雑で業務効率の悪さを指摘する声が聞かれていた。

そこでストレスと作業環境の関連性を明らかにするためのアンケート調査を行ったので結果をここに報告する。

用語の定義：本研究でいう作業環境とは、ナースステーション、診療処置室、作業室のことを示す。

II. 目的

看護師のストレスと作業環境に関連があるかを明らかにすることを目的とする。

III. 方法

1. 期間 2015 年 10 月 22 日～10 月 31 日
2. 対象 A 病棟師長・研究者 3 名・看護助手を除く看護師のうち同意を得られた 32 名
3. 方法

一部自由記載のある選択形式アンケートを厚生労働省の職業性ストレス簡易調査票¹⁾を一部改変したものに研究者が独自に考案した設問を追加作成し、作業環境の改善前後のストレスについて調査した。改善前アンケートについては

改善前の作業環境の写真を掲示し、回答してもらった。作業環境改善前後の一例を以下（図 1～4）に示す。



図 1：ナースステーション改善前

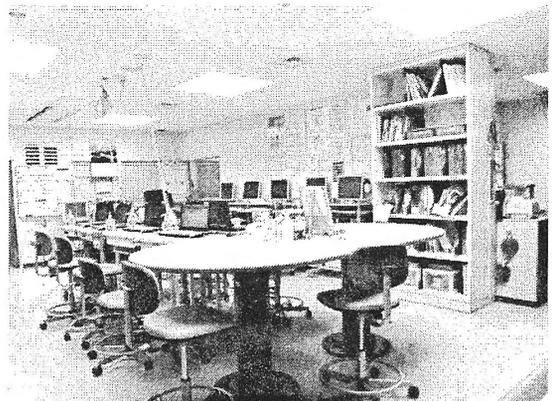


図 2：ナースステーション改善後



図 3：作業室 改善前



図4：作業室 改善後

アンケートの項目は、ストレス度調査と作業環境についての調査の2部構成とし、それらの関係性から本研究の目的を見出すこととした。(別紙 資料1参照)

アンケートは「1 そうだ、2 まあそうだ、3 ややちがう、4 ちがう」の4段階で評価し、ストレスが最も高い状態および作業環境に問題意識がある状態を4点とし、集計した。また設問の半数以上を「1 そうだ」と回答した人を高ストレス群、それ以外の人をその他群とし、それぞれの作業環境についての調査結果を分析した。アンケートの結果は単純集計およびウィルコクソン検定を用いて集計した。

IV. 倫理的配慮

本研究は奈良県立医科大学附属病院看護研究倫理委員会の承認を得た。研究の主旨を書面・口頭で説明し、設置した回収箱に提出されたことにより同意を得た。対象者のプライバシーに配慮し、調査票は無記名で個人が特定されないものとした。研究への参加は自由意思に基づき不参加であっても対象者に一切の不利益がないようにした。調査票の回収は、回答内容が見えず、取り出せない回収箱とした。

V. 結果

対象者32名にアンケートを配布し、29名(回収率91%)の回答があった。

ストレス度調査では作業環境改善前後において有意差を認めた ($p < 0.05$)。

また作業環境改善後にはストレスの軽減および作業環境が良くなったと感じている傾向にあった。さらに高ストレス群・その他群に分けて分析すると、高ストレス群は作業環境に対する問題意識が高い傾向にあった。

そこで高ストレス群・その他群における作業環境の問題意識の程度の比較を行った。

高ストレス群では、作業環境に対する問題意識の内容は「整理整頓が不十分」が最も高く、次いで「配置関連性が不十分」「スペース確保が不十分」「清潔不潔の区別が不十分」の順であった。一方、その他群では、「スペース確保が不十分」「清潔不潔の区別が不十分」が最も高く、次いで「整理整頓が不十分」「配置関連性が不十分」の順であった。それぞれの群で作業環境に対する問題意識の内容について順位は違ったが、全ての項目において作業環境に対する問題意識は減少した(図5)。

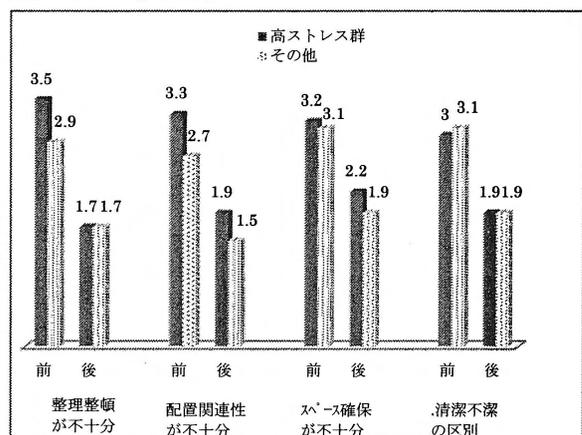


図5：高ストレス群とその他の作業環境に対する問題意識の比較

VI. 考察

ストレス度調査では「非常にたくさんの仕事をしなければならない」「時間内に仕事が処理しきれない」の項目において、作業環境改善後にストレスは改善傾向にあり、これは作業環境改善により作業スペースの確保や動線が短縮され、作業効率が向上したことが要因と考えられる。

看護師のストレス度調査における先行研究は多数あり、ストレスの要因としては業務量や業務内容・人間関係等が多くを占めていることが分かっている。業務量の整備や人的問題等の取

り組むことが困難な問題に比べ、作業環境改善は取り組みやすいストレス軽減方法の一つになり得ると考えられる。相川らは「ストレスに溢れている職場の中でも、スタッフ同士が同じストレスを抱える仲間としてお互い助け合い、人間関係を重要にしなが業務量、業務内容にも目を向けて改善していく必要がある」²⁾としている。今回、病棟スタッフ全員で作業環境改善に取り組んだことで達成感が得られたのではないかと考える。また、仕事に対するモチベーション向上につながることも今後期待できると考える。

しかし一方で、作業環境改善により新たな環境へ順応する必要がある、これらが新たなストレス要因になることも考えられる。今回は作業環境とストレスの関連性について検討したため、今後さらなるストレス軽減を目指すためには他のストレス要因についても検討していく必要がある。

今回、作業環境改善後に前後のアンケートを実施したため、タイムリーな結果を収集できていないこと、また作業環境改善後も依然問題と考える点が多数存在するため、これらの課題に取り組むべく、作業環境改善を継続することが今後の課題である。

VII. 結論

作業環境を改善することで看護師のストレス軽減につながる可能性が示唆された。

参考文献・引用文献

- 1) 厚生労働省：ストレスチェック制度の概要，
2014年12月17日
http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudouki jun/anzeneisei12/kouhousanpo/summary/pdf/stress_sheet.pdf
- 2) 相川 択弥，他：A病院における看護師のストレス実態調査，日農医誌，63巻4号，P665-669，2014